

学習院大学史料館叢書 第四卷

大石慎三郎編

飯沼新田史料(二)

学習院大学史料館発行

序 文

これは、われわれ「農村史研究会」のメンバー（小林雅子・斎藤洋一・佐藤常雄・須田肇・高沢憲治・林敬・山中清孝および大石）がおこなっている飯沼新田研究に関連する史料集である。これまですでに『飯沼新田史料』(一)と、『飯沼新田史料』(一)をだしており、これはそれに続くものである。

われわれはこの飯沼新田およびその周辺地域調査にあたっては、二つの原則をたてた。

その一つは、論文を書くためだけの虫喰いの史料探訪をせずに、関連史料は悉皆調査をしようということである。新田が大きく、これに関係する村々が多いため、史料所蔵者は予想外に多く、また所蔵史料も思いの外の点数を数えたが、われわれはそのすべてを整理し、その各々について目録を作った。この目録は費用の関係で謄写刷りであるが、機会があればいずれ『飯沼新田関係史料目録』として一冊にまとめ刊行したいと考えている。

第二は、この調査が終わったところで、各自論文をまとめることであるが、主要史料は公刊することで共通の土俵をつくっておこうとしたことである。『飯沼新田史料』(一)(二)はいうまでもなく飯沼新田に関する基本史料であるが、その内容は飯沼新田開発事業に関連しての史料であり、時代も事業完了時までで終わっている。しかし新田はその後も、江戸時代だけで約一四〇年もの歴史を持っており、またそれと密接に関連して動く数多くの村々の歴史があった。

『飯沼新田史料』(一)(二)は、このような史料のなから、重要と思われるものを選んで編集したもので、(一)に「村」「土地」「戸口」「普請」関係史料を収めたのたいし、(二)はそれにつづいて「開発」「生産」「貢租」「訴訟」「流通」

関係の史料を収録している。史料集はこれで一応段落をつけ、われわれはいよいよ本来の目的である研究にとりかかりたい、と思っっている。

ところで飯沼新田地域は陸の孤島といわれるだけあって、われわれは調査にあたっての足の不便にひとかたならぬ苦勞をした。そのため調査の初期の段階では、経済学部の大石ゼミの卒業生である根本憲治君に車を提供してもらった。ここに記して御礼を申しあげる次第である。その後佐藤・林両君が相ついで運転を習い車を手にいれた。

さてこの調査については、メンバーの私費を原則としたが、「江戸時代中期における耕地開発の基礎研究」と題する私を研究代表者とする研究に、日本私学振興財団から学術振興資金として九〇〇万円（三〇〇万円ずつ三年間）いただいたのが、この研究および史料集刊行に大変役立つことを記しておきたい。

最後に本書刊行の経緯について一言しておきたい。本書の刊行作業には、大石以下、小川紀子・斎藤洋一・須田肇・副島由美子・浜田佳代子の史料館員があたった。ただし本書のもととなった史料調査・収集および原稿作成等については、前記農村史研究会の小林・佐藤・高沢・林の諸君から多大のご協力を得た。記して謝意を表す。

おわりにあたり、いつも快く家蔵の貴重な古文書の閲覧をお許しいただいている所蔵者の皆様、そして学習院大学史料館叢書の創設と刊行を背後で支えて下さった学校当局の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

昭和五十八年三月十日

学習院大学史料館長 大石 慎三郎